

再婚問題、どう考えてる？

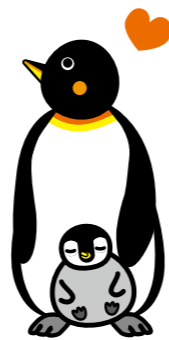
SFになると、周囲の人からは、生活や子育てが大変なことへの解決策として、再婚を勧められることが多いようです。でも、生活や子育てが大変だからこそ、出会いの機会やおつきあいのための時間もないことが多いのです。死別や苦労しての離婚を経験したばかりの時に再婚を考えることは、できる人もいるかもしれませんが、誰でもそうであるわけではありません。そのことを、周囲は理解する必要があります。

保育園では子ども同士が仲良しで、その子のお母さんとママ友になることがよくあります。ママ友がひとり親の場合には、子どもも連れて一緒にファミレスなどで食事をするなど、結構、仲良くなる機会は多いです。でも、**子どもが一番だから、すぐに再婚を考えるかどうかは慎重に**と考えています。子ども同士が同じ年齢、同じ学年になってしまいますし、他の子どもたちからいろいろ言われることもあるようなので、初婚同士のように当人たちだけの気持ちを中心に考えることは難しいですね。

うちは10年以上ひとりでやってきました。子どもが小さいうちは、時間もなければ精神的な余裕もなかったです。思春期に入ってしまうと、難しい年頃に自分が再婚することで、子どもが荒れたりしないか気がかりです。とはいえ、子どもが独立した後も結構長い時間が残されていると思うと、ずっとひとりもな…と思うので、いずれ再婚はしたいと考えています。**再婚のタイミングは、子どもが思春期前か独立後かのどちらかではないかと自分は考えています。**

離婚した後、親族は遠くに住んでいたの、日常生活面へのサポートは得られませんでした。子どもは中学生でしたので、もっと小さい子に比べれば、手はかかりませんが、心配した親族や友人からは再婚を勧められました。両親からはあまりに強く勧められるので、「**家事をやる人間を確保するために再婚するんじゃない！**」と言いました。娘が独立するのあと数年だと思うと、その後、ずっとひとりである気もないので、再婚のことは考えています。

父子家庭になって3年以上経ちました。上の子どもは小学生になり、下の子は保育園に行っています。ずっと世話をしてくれている実家（近居）の母が最近になって、ときどき「最近どうなの？（いい人）できた？」と聞いてくるようになりました。今のところ、自分ではあまり再婚するつもりはないですが、**両親はどう思っているのかな…。**



亡くなった妻のこと、どう伝える？

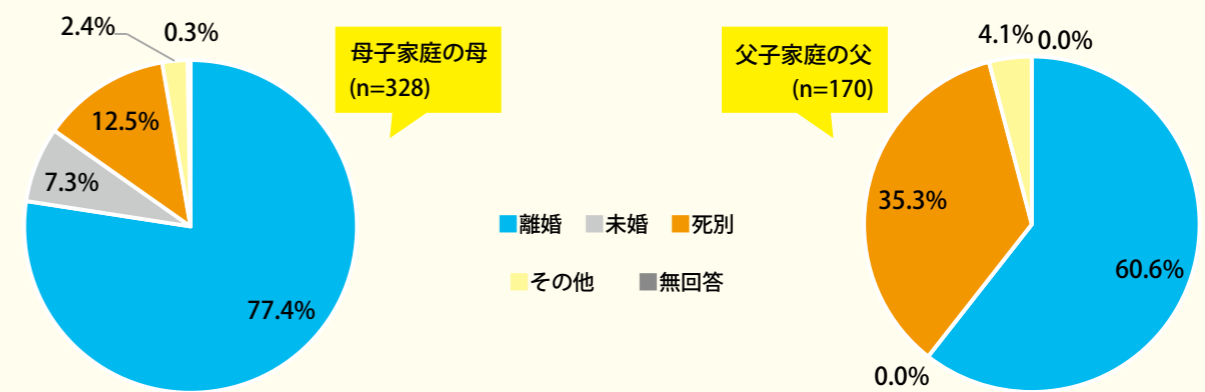
川崎市の調査では、ひとり親家庭になった理由として、母子家庭が離婚 77.4%、死別 12.5%であるのに対し、父子家庭は離婚 60.6%、死別 35.3%と死別の割合が高くなっています。全国的にも同様の傾向があります。小さい子どもからお母さんのことを聞かれたときどうするか、正解はありませんが、ここでは、死別のSFの思いやご経験を紹介しています。

闘病の甲斐なく、妻は亡くなってしまいました。子どもが小さかったので、「お母さんは、お空に行ったよ」と伝え、今は納得しています。**どういうタイミングで、実際の経緯を伝えるかは悩ましい**ところです。

亡くなった理由が自殺なので、子どもにはどういう風に伝えるのが難しいです。今はまだ子どもは小さいのですが、いずれ聞いてくるのではないかと考えています。残された者はどうしても自分を責めやすいのですが、**子どもが自分のせいだと思わないように伝えていくのが重要**かなと思っています。

亡くなってすぐは全くそう思えませんでした。3年経ち、周囲の方々に言われた「**時間が解決していく**」という言葉が**だんだん実感を持って受け止められるようになってきました**。周囲の気遣いの声も、最初は素直に受け止められませんでした。でも、今は、周囲にうまく甘えていくことも上手にできるようになってきていると思います。それまで自力でがんばってきた人にとっては、「**上手に甘えていくこと**」を学ぶことが大事です。最初からうまくはできないかもしれませんが、努力してみてください。

ひとり親家庭になった理由



出典：「川崎市ひとり親家庭生活・就労状況等実態調査」（2015年）